

目次

凡例 …… 7

序文 …… 9

第1章 東海の名称問題 …… 15

1. 問題設定 …… 15

2. 収集された古文書と地図をとおした東海という呼称 …… 16

3. 論評 …… 23

第2章 「黄沙の浜」、「万里長沙」から今日の「西沙（ホアンサ）、南沙（チュオンサ）」へ
…… 29

1. 中国の華南地域の限界 …… 30

2. カウチンシナからインドシナへ …… 43

2. 1 カウチンシナーコーチシナ …… 43

2. 2 インドシナ …… 46

3. チャンパの砂浜（Baixos de Chapar）ープラセル諸島（Pracel Islands）ー
スプラトリー諸島（Spratly Islands） …… 49

3. 1 西洋航海家が作成した注目すべき航海図 …… 49

3. 2 チャンパの砂浜ープラセルースプラトリー（Baixos de Chapar — Pracel —
Spratly）に関する若干の地図の検討 …… 54

4. マテオ・リッチ（Matteo Ricci）の世界地図についての新たな発見 …… 63

第3章 ホアンサ・チュオンサはベトナムに属する …… 75

A. 史料について …… 75

1. 東海の地理的・政治的位置 …… 75

2. ホアンサ・チュオンサ群島 …… 77

a. 『纂集天南四至路圖書』におけるホアンサ …… 78

b. 黎貴惇の『撫邊雜錄』におけるホアンサ …… 79

c. ファン・ファイ・チュー（潘輝注）の『歴朝憲章類誌』（1821年）および『皇越地輿誌』
（1833年）にみるホアンサ …… 81

d. 『大南寔録』前編（1844年）および『大南寔録』正編（1848年） …… 82

e. 『欽定大南會典事例』における黄沙 …… 85

f. 阮通の『越史綱鑑考略』（1876年）で使用された黄沙 …… 85

g. 『大南一統志』における黄沙 …… 86

h. 『國朝正編撮要』における黄沙 …… 87

B. 東海をめぐる紛争 …… 88

1. 中国には、ホアンサ・チュオンサ両群島に関して主権がない	91
2. 台湾はベトナム領チュオンサ群島について主権がない	105
3. フィリピンには、ベトナム領チュオンサ群島に主権がない	109
4. マレーシアには、ベトナム領チュオンサ群島に主権がない	113
5. ブルネイの主権要求	116
6. ベトナムとインドネシアの紛争を解決する	116
7. ベトナムとタイの紛争を解決する	118
8. ベトナムとカンボジアの紛争を解決する	118
C. 1909年から1945年にかけてのフランスインドシナ政庁下でのホアンサ・チュオンサ に関するベトナムの持続的主権はいかなる状況であったのか	119
第4章 東海問題解決の試み	151
東海問題への解決を見出すために	153
付論	
1. ベトナム対フィリピンー0対2ー東海サッカー	159
2. 中国と東海ー「善隣」か「所有権か」	162
3. 見苦しい中国	169
4. 罾だと警告するー「紛争をしながら共同開発すること」	172
5. 「研究者」王漢玲氏と東海に関して議論する	175
6. ドー・ゴック・ビック（エール大学）への手紙	179
7. 睦隣・安隣・富隣であるのか	187
1. 睦隣	187
2. 安隣	188
3. 富隣	191
8. 中国はあえて何をするのか	196
9. 中国は直ちに好戦的口調をやめるべきである	205
10. 四つの善心と天朝の要求	207
11. 日中関係とベトナムへの教訓	210
訳者あとがき	214